

大 念 佛

No.105

発行 融通念佛宗
総本山 大念佛寺
大阪市平野区平野上町1-7-26
TEL.06-6791-0026



このQRコードで
大念佛寺にアクセスできます。

大念佛寺 検索
<https://www.dainenbutsuji.com/>

題字：融通念佛宗 管長 吉村暉英

よみがえる昭和の大堂 令和の本堂大改修 成満

融通念佛宗 宗務総長
田中瑞修



令和の本堂大改修も昨年十一月七日請負業者金剛組より引き渡しを受け無事全ての工事が完了致しました。足掛け三年に渡った大工事は日本全国に被害をもたらした

災害や特に心配された台風の被害に遭うこともなく、また危険な高所作業にもかかわらず何の事故もなく無事完成したことは神仏のご加護、工事関係者の真摯な取り組み、

檀信徒皆様の祈りのおかげであります。この事業に対し末寺住職はもとより檀信徒、有縁の方々には浄財勸募等のご無理をお願いし、皆様のご理解とご協力のおかげをもちまして工事を推進し、無事完成を見ることができましたことに衷心より厚く感謝申し上げます。今日の本堂は昭和十三年に建立されたものであり、以前の本堂は今より約四百年程前に建てられ、明治三十一年失火により烏有に帰し、それより四十二年間に及ぶ永きに渡り先人はご苦勞をいただき、ようやく昭和十三年に建立されたものであります。我々はこの本堂を守り後世に引き継ぐ役目を果たさなければなりません。今日完成致しました本堂も改修工事により以後百年の先まで保つことのできることを確信しております。

本堂屋根改修は以前より歴代内局の懸案事項でありました。平成二十八年十一月内局を預かり、翌年三月ある工事関係者より昭和十三年現本堂の建築設計を手掛けた設計事務所が現在も存続し業務を続けられているとの話を聞き、後日名古屋に支店があるその業者に連絡を入れていただき、東京に本社を構える伊藤平左エ門建築事務所との社長と面談し、設計業務と本堂設計に関する話を聞かせていただき、何か不思議なご縁を感じました。そして本堂屋根改修をしなければならぬ状況を話し、屋根及び本堂全体がどのような状況かを調べていただかなければならぬところが度重なる台風の来襲を受け本堂や境内に甚大な被害を被ることになります。台風は三十メートルを越す風が吹き荒れ、諸堂の屋根瓦が木の葉のごとく飛び、本堂

の屋根も銅板瓦が同じく各所でめくれ飛散する状況をなすすべもなくただ早く収まることを祈るより他なし、自然の脅威に唾然とするばかりでした。台風の通過後、あと片づけ掃除に追われ数日後諸堂の被害、破損状況を調べると、甚大な被害が確認され、特に本堂の屋根の被害が一番大きく、今日まで屋根瓦の一部修繕で対応してきただがそれではおほつかない状態となっていました。早急に対応策を講じなければならず、宗議会、評議会に諮ったところ、本堂改修準備委員会を立ち上げることになり、続けて本堂改修実行委員会が設立され、改修事業に一步踏み出す事となりました。しかしながら本堂は大阪府最大級の木造建築物であり、大阪市指定文化財に指定されており、改修工事をするには大阪市の認可が必要となります。この手順等を伊藤建築事務所と相談したところ、認可を早く確実に受けるには、それぞれ建築に代わる権威をもった先生方に指導を仰ぐことが近道であるとの助言を受け、伊藤建築事務所との関連のある先生方を紹介していただき、構造委員会を設立し指導を仰ぐことになりました。構造委員会の先生方は伝統建築の権威である大阪市立大学の谷教授、耐震免振については京都大学の鈴木教授、文化財保護専門の東京大学の藤井教授に依頼し、構造専門の金沢工業大学の先生方にも参加していただき、構造委員会が構成されました。続いて伊藤建築事務所による本堂の全体調査を依頼し、その結果、本堂屋根の損傷は思いのほか激しく、銅板瓦屋根を支える木材の劣化が被害を大きくした原因となりました。本堂そのものの地盤も沈下により最大十八センチの沈下が見られました。耐震免振の工場の必要性、木材の腐食部分の改修の必要性等の調査結果が出てまいりました。この調査を受け伊藤建築事務所と構造委員会で改修計画案を作成、大阪市内に工事認可を申請し、認可を受けることができました。令和四年に入り緊急車両の進入路及び工事関係車両の進入路の設置計画、設計、入札が行われ、設計会社は伊藤建築事務所、工事は金剛組が落札し、工事施工の運びとなりました。続いて令和五年には本堂改修工事に向け設計業者、工事の請負業者等の選定に入りました。設計は引き続き伊藤建築事務所、本堂工事請負業者も金剛組が落札いたしました。同年五月十日起工式を営み工事の無事を祈り、九月一日工事着工の運びとなり、本格的な工事が稼働を始めた。着工より三年余り令和七年十一月七日めでたく工事が無事完了し金剛組より本山に引き渡しを受け一大事業が完結いたしました。

合掌



大改修を終えた本堂。多くのご縁とつながりに支えられ、令和の時代に新たな姿へと生まれ変わった本堂。

「令和の本堂大改修」

今 蘇る日本最古の念仏道場の雄姿
受け継がれる祈りの場 本堂大改修の軌跡



令和7年11月7日、大改修のすべての工程が終了し金剛組様から大念佛寺に本堂が引き渡されました。



銅板瓦の解体が完了すると、屋根下地の木部を修理していきます。



銅板瓦の解体がほぼ完了した写真。



着工前の本堂屋根には経年劣化や平成30年台風21号による被害と思われる損傷が各所で認められました。



足場解体の様子。令和7年5月には足場の解体が始まりました。



新旧の銅板下地を比較したものです。左側の旧材では、3点が丸瓦を受けています。



屋根の切妻部分(斜めになっている部分)にある破風板(はふいた)の取り外し作業です。

- | | |
|---------------------------------------|--|
| 屋根工事
板金葺き替え
下地改修 | 基礎補強工事
不陸調整
地盤改良
基壇改修 |
| 耐震補強工事
床下補強
壁補強
屋根裏補強 | 内外装工事
木部修理
壁塗り直し
木口塗装
錆金物修理 |



本堂南北の妻部分には新しく意匠が施された飾り金具があります。



本堂北面の間知石(けんちいし)の復旧工事が完了しました。



こちらは、大鬼の最上部にある3本の角のような部位「鳥衾(とりぶすま)」の木下地が半分露出した状態です。



工事着手にあたり、令和5年5月10日、本堂におきまして、厳粛なる起工法要が厳修されました。



軒先の丸部分には「総本山」、平部分には「大念佛寺」の刻銘が入っています。



「棟札」紹介。建築の施主や工匠などの関係者を記載して残すものです。



屋根廻りの工事。銅板瓦を一旦全て下ろして再使用が可能な物と不可能な物を選別し、下地の木材を取り換え、修理を行ったうえで、銅板瓦を葺き直します。



大阪府下最大級の木造建築物である本堂の仮設足場。



隅棟(すみむね)の銅板葺き。「隅棟」は屋根頂上の水平に走る大棟から屋根を伝い、下方向(軒先方向)に下っている棟のことで、「降棟(くだりむね)」とも呼ばれます。



令和6年10月17日 本堂上棟式の様子です。「棟札」とよばれる札を納める上棟式が行われました。



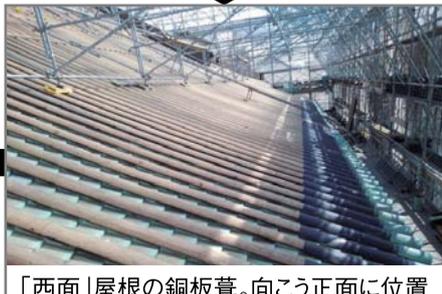
梁下や天井から垂れ下がる壁、「垂れ壁」。その内部には「はしごフレーム」が備え付けられました。



素屋根と足場の組み立て作業と同時に進行していたのが基礎工事です。



本堂正面(東面)へ葺かれる新しい銅板瓦。向拝(ごはい)と呼ばれる正面の張り出し屋根に煌びやかな銅板が葺かれました。



「西面」屋根の銅板葺。向こう正面に位置する「西面」屋根は、従来使用していた緑青付きの銅板を使用しています。



床下の耐震補強工事。今回の工事では床下、壁小屋組みに耐震補強を施しました。



最初は基礎工事での不陸調整工事です。建物周囲の地盤改良工事を行ったうえで、建物をジャッキアップし、高さを整えたあと、無収縮モルタルで足元を固めます。

融通念仏ゆかりの地 観心寺

観心寺は、飛鳥時代後期（七〇一）、役行者によって開創されました。平安時代、弘法大師が如意輪観音像を彫刻し、ご本尊とされました。ご本尊は国宝で、秘仏とされています。その後真言密教の修行寺院、歴代天皇の祈禱所として、また高野山と奈良、京都の中宿として発展しました。南北朝時代、後醍醐天皇は楠木正成を奉行として金堂を造営されました。金堂は大阪府下最古級の国宝建造物に指定されています。



観心寺金堂



仏涅槃図

良忍上人まで遡ります。大念佛寺の寺伝によると、良忍上人は、秋の彼岸のおり、四天王寺で念仏勸進をした後、河内の南、観心寺で念仏勸進をされたと伝わっています。

観心寺の記録によると、「大念佛寺の二天の阿弥陀という本尊は観心寺の僧、蓮蔵院長尊の応永二十八年（一四二二）頃の筆」

と伝わっています。また、蓮蔵院長尊は、応永二十八年（一四二二）九月二十一日に大念佛寺の浄善上人の菩提のために、仏涅槃図を書いて寄進したと記録されています。観心寺に現存する

仏涅槃図はこの涅槃図を永正十七年（一五二〇）に新写されたものと見られており、応永二十八年の仏涅槃図は大念佛寺に伝わっているのかもしれませんが、また、観心寺の子院、大字小深にあった地藏院の別院地藏寺が永禄年間（一五五八〜一五七〇）に融通念佛宗となったとの記録もあります。

東京布教

満員御礼

令和八年二月二十一日、心配された天気は仏天の加護のお陰で綺麗に晴れ上がり、東京に向かう新幹線から眺める富士山は

殊のほか美しく優美な姿を見せてくれました。

今回で九回目となる東京布教を桜井市のNHK「やまと尼寺



精進日記」でおなじみの音羽山観音寺住職 後藤密栄師にお願いしたところ、関東における後藤師の知名度が高くほぼ満席の状態を迎えることができました。

また当日は薬師寺管主の生駒基達猷下がお越し下さり花を添えて下さいました。

後藤師は山寺での生活や自身の昔話、僧侶になった経緯などを交えて面白おかしくお話し下さり、お人柄もあってか和やかな空気に包まれて無事に東京布教を終えることができました。ここに関係各位に厚く御礼申し上げます。

紫金職任命



大東 良雄 師

令和八年度紫金職は第一教区大東良雄師（大阪市生野区田島本覚寺前住職）が就任されました。任命されるには住職在任期間二十年以上などの条件を満たした僧侶の中から選ばれます。紫金職は本宗僧侶にとって荣誉ある役職です。任期は二月一日から一年で、大念佛寺の三祖忌法要、万部法要など管長猷下の前座導師を勤められます。

大東師は昭和二十年生まれで、昭和二十八年に入宗、同五十四年から本覚寺住職を三十年以上、四条法蔵寺兼務住職も二十年近く務

められました。宗内では菩薩役、教区長、御回在審議委員、寺院等級審査委員、僧階査定委員、御遠忌奉修局委員、審査委員、門中長などの要職を歴任し、長きにわたる本宗を支えてこられました。

自坊においては、昭和五十四年本覚寺本堂・庫裏新築、平成五年法蔵寺本堂・庫裏新築、平成十一年本覚寺本堂・庫裏改築され、平成六年には融通正伝法も執り行われ精神的に宗門繁栄のためご尽力されてきました。

紫金職就任にあたり「ほとけさまのご加護のもと、ご本山の三年に亘る本堂大屋根の大改修も終わり、新装となった御堂において各種の法要が執り行われます。この千載一遇の機会に紫金職を拝命したことを有難く、うれしく思います。不束ながら、しっかりとつとめを果たしたいと思えます。」と熱く語っておられました。

青年会だより

令和の本堂大改修工事が無事に終わり、新装された本堂では例年以上に融通の力が結集され、より一層華やかな法要になることと思

います。

融通念佛宗青年会では若手僧侶が日々集まりお互いに意見を出し合い、講習会、ボランティア活動など様々な活動を通して研鑽に励んでいます。その中の活動の一環として当会では仏様とご縁を深めるきっかけとして本年も「ぼさつまぬりえ」ならびに青年会活動報告、グッズ販売を行います。本年のぼさつまは練り供養では二十番目に出現される「定自在王菩薩」です。お打ちになられる太鼓の音はあらゆるものの平等の響

きを示しているといわれます。

色えんぴつで色とりどりのぼさつまに息を吹き込み、最後に願い事を書いてもらい、会場内にごんどん貼っていきます。

願い事を言葉に託すとその言葉に魂が宿ります。心願成就、大願成就、魂が宿った願い、思いが叶うように万部法要終了後には、青年会僧侶が祈願法要を勤め、その後大切に



にお焚き上げさせていただきます。尚、ぬりえは五月二日から六日まで毘沙門堂横の建て物で展示しております。皆様のお越しを青年会一同お待ちしております。

融通念佛宗青年会

会長 片井順香

令和の本堂大改修 落慶・慶讃万部法要 について

落慶法要祝賀

日時 令和8年5月1日(金)
午後1時から4時
場所 本堂(自由観覧)
祝賀 舞楽奉納、
和太鼓奉納「いなせ」、
中村美律子コンサート

※五月一日午前中より厳修される落慶奉告法要並びに式典は招待者のみのご案内となります。

※午後からの祝賀について本堂内は自由席ですが席数に限りがあります。

舞楽奉納

融通念佛宗楽融会

演目 舞楽「振鉦」「落蹲」

■振鉦

「振鉦」は、舞楽の中でも最も古い形式を伝える舞で、儀式の始まりを清め、場を整える意



味を持つ「導入の舞」とされています。舞人が手にする鉦を振り、四方を祓い清める所作は荘厳で、これから始まる儀礼や舞楽の成功を祈る象徴的な演目です。静と動が調和した気品ある舞は、古代より受け継がれてきた祈りの心を今に伝えます。

■落蹲

高麗志越調「納曾利」の曲を用いる一人舞です。「納曾利」は、二匹の龍が楽しげに遊び戯れる様子を舞にした右舞の代表的な二人舞ですが、一人で舞うときには「落蹲」と呼ばれます。

周囲を毛で縁取った「毛縁袴(けりりょうこ)装束」と龍を模した面を着け、銀色の桴(ばち)を持って舞います。雅やかな装束と、軽やかで流れるような舞の動きと舞楽の旋律が調和した伝統芸能の美をお楽しみ下さい。

和太鼓奉納「いなせ」

和楽器集団「いなせ」は、日本の伝統芸能である和太鼓を現代に息づかせるべく結成されたパフォーマンステームです。力強い鼓動と繊細なリズムを融合させ、観る人の心を揺さぶるステージを創り上げています。

メンバーそれぞれが長年の修練を積み、太鼓の響きに魂を込めて演奏する姿は、まさに「粋」という言葉がふさわしいものです。伝統的な演目からオリジナル曲まで幅広く手がけ、地域イベント、

学校公演、国際交流の場など、多彩な舞台で活躍しています。



中村美律子 落慶記念コンサート

落慶を記念し、特別祝賀として、

演歌歌手 中村美律子さんをお迎えいたします。大阪府出身の演歌歌手 中村美律子さんは、力強さと温もりをあわせ持つ歌声で、長年にわたり多くの人々を魅了してきました。下町情緒



あふれる人情歌から、人生の機微を描いた名曲まで、幅広いレパートリーを持ち、その歌唱力と表現力には定評があります。

代表曲「河内おとこ節」をはじめ、聴く人の心に寄り添う歌の数々は、世代を超えて愛され続けています。

万部法要における 回向、勧進

先祖回向だけでなく「世界平和」「家内安全」「病氣平癒」「身体堅固」「心願成就」など具体的な祈願もお申し込み下さい。

受付：本堂内

●ロウソク勧進

大ロウソク(御本専用) 二千元
中ロウソク(脇檀用) 千円
カップロウソク

(八月十六日 万灯会用)

受付：本堂縁左側

●万部常回向 回向料 五千元

受付された日より五日間各僧侶により一斉回向

願いと感謝の心を燈火に託して下さい。

●当座回向 回向料 三千元

受付された当日のみ各僧侶により一斉回向

受付：楽邦殿(納骨堂)

●別回向 回向料 五千元
楽邦殿(納骨堂)にて受付順にお勤め(約十五分)いたします。混雑が予想されますがご理解のほどお願いいたします。

小 径

年に一度、夫婦そろっての贅沢。それは、人間ドックです。

高級ディナーでも、温泉旅行でもなく、大腸検査や胃カメラ。ロマンはゼロ。でも、リターンは最大級です。お葬儀の現場で、「もう少し早く検査していれば…」

そんなお声を、何度も耳にしてきました。だからこそ思うのです。未来の後悔を減らすための、いちばん堅実な自己投資。夫婦で長く元気に生きるための、年に一度の「命のメンテナンス」心からおすすめします。

光雲

話せば心も軽くなる

大阪仏教テレホン相談室

仏事相談、信仰相談、その他あらゆる人生相談を十宗派の僧侶がお受けします。

月曜日～金曜日(八月休) **でんわ 〇六(六九九九)九〇一〇** 午後二時～五時迄